



広島平和記念公園での「碑めぐり」

年次報告書 2024

Annual Report



Feature

特集 ひろしまを考える旅

多様な参加者たちが、広島で証言を聴き、街を歩きました。核のない世界のために私たち一人ひとりに何ができるか？ 出会い、学び、交わりのなかで考え、言葉にしました。



ワークショップ
「核のない世界のために
なにができるだろう？」

「原爆の子の像」の
鐘を鳴らす参加者

プロフィール

YWCA(ワイ・ダブリュー・シー・エー / Young Women's Christian Association) は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。1855年英国で始まり、今では日本を含む100以上の国・地域で活動しています。

日本では、24の地域YWCAと37の中学・高等学校YWCAが活動しています。

女性や子どもや高齢者など、弱い立場におかれている人たちの本来の力を取り戻し、共に生きる世界を実現する人材を養成しています。

日本YWCAのビジョン

女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切に作る社会

日本YWCAのミッション

若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます

日本YWCAのバリュー（大切にしている価値）

1.キリスト教基盤

すべての人は神の前に等しい価値をもつと信じ、常に弱い立場に置かれた者の側に立たれたイエス・キリストの生き方^{なら}に倣って行動します。

2.平和・環境

アジア・太平洋戦争の反省から生まれた平和憲法を活かします。

すべての「核」を否定し、軍事基地を含む暴力のない公正で持続可能な社会をめざします。

3.人権

人種・国籍・宗教・性・出自・年齢などの多様性を互いに尊重し、ジェンダー平等のもとで誰もが自分らしく生きることができる社会をつくれます。

4.セーフスペース

会員（ボランティア）が主体的にプログラムを推進し、すべての活動を、多世代協働によって民主的に運営します。

常に誰にとっても安全安心な空間をつくり、誰もがエンパワーされる場とします。

目次

特集：ひろしまを考える旅	1
若い女性のリーダーシップ養成	2
第69回国連女性の地位委員会（CSW69）報告 ジェンダーに取り組むユースの活動 （ユース・ジェンダー小委員会） 中高YWCAの活動	
東日本大震災被災者支援活動	4
リフレッシュプログラム セカンドハウスプログラム YWCA 活動スペース「カーロふくしま」	
全国のネットワークによる活動	5
全国で展開するローカル・アクション（LA） 全国総会：柚木麻子さん講演会	
国際連帯・アドボカシー	6
パレスチナへの連帯と支援 ミャンマー支援活動 世界YWCA 出版物の日本語訳発行： 『セーフスペース・ガイド』 インターン受入れ 声明・賛同	
コラム	8
全国のYWCAが多様な女性たちの 「セーフスペース」となることを目指して！	
募金のテーマ・クローズアップ	9
「災害時支援募金・ウクライナ支援募金」を深掘り	
寄付報告	裏表紙

ひろしまを考える旅

2025年3月24日(月)～26日(水)

テーマ:「学ぼう！核のない世界のために 伝えよう！核兵器の非人道性を」

参加者:32名

「ひろしまを考える旅」は、全国からユースを中心に多世代の参加者、また中国・韓国YWCAからのゲストと共に被爆証言を聴き、資料館見学・碑めぐりなどを通して、広島で平和を考える2泊3日のプログラムです。YWCAのアイデンティティである「『核』否定の思想に立つ」を具現化するため、1970年に始まり、以来毎夏続けてきました。



碑めぐり「原爆ドーム」前にて

基調講演では、GeNuine 共同代表の徳田悠希さんより、ジェンダーの視点から核兵器を考える活動をはじめ、環境・植民地主義とも直結する「核」問題を、どうすれば「自分の問題」にしていけるのか？という視座をいただきました。フィールドワークでは、「海外からひろしまに思いを寄せた人々」「韓国・朝鮮人被爆者の歩み」「呉市の過去・未来」のコースに分かれて現地を歩き、被爆者・空襲体験者、伝承者が語る言葉に耳を澄ませました。まとめのワークショップでは、旅の経験を振り返りながら、参加者同士が自分の言葉で想いを語り合い、「核がない世界のために自分にできることを」考え、表現しました。



「呉市の過去から、現在・未来を見通す」フィールドワークにて

原爆投下から80年となる今、ヒロシマ・ナガサキが最後の被爆地でありつづけるためにはどうすればよいか、わたしたち一人ひとりにできることは何か？にじっくり向き合いました。

※ひろしまを考える旅はピースメーカーズ募金へのご寄付を用いて実施しています。

若い女性のリーダーシップ養成



国連本部の前で記念撮影

第69回 国連女性の地位委員会(CSW69)

2025年3月9日(日)～15日(土)

@ニューヨーク

ニューヨークの国連本部で開催された国連女性の地位委員会（CSW69）に、日本YWCAより5人のユースが派遣されました。

今年度の派遣者は、日本語でのオンライン開催とニューヨークでの現地開催の2回に分け、「脅威のもとで暮らす～在日米軍基地問題を共に考える～」と題したイベントを独自開催しました。



現地で開催したイベントのフライヤー

参加者の報告より

沖縄、長崎、名古屋、東京のYWCAからのメンバーがそれぞれの立場や経験から、日本、特に沖縄における米軍基地問題について自分ごととして考えて欲しいという強いメッセージを発信しました。

会場には約40名の方が集まりました。特に、他国のYWCAの方や、同じく米軍基地を抱えるパシフィック（太平洋地域）の方や、現地の高校生の参加がありました。グループワークでは、「知らなかった」「東京と沖縄はどれくらいの地理的距離があるのか？」「どのくらい沖縄と東京のカルチャーが違うのか？」「日本ではどのくらい米軍基地の話は有名なのか？」「友人と、このトピックについて話せるの？」など、さまざまな質問が挙げられました。最後にはパシフィックのYWCAのメンバーから連帯の声があげられました。



イベントで発表する派遣者

ジェンダーに取り組むユースの活動(ユース・ジェンダー小委員会)

今年度のユース・ジェンダー小委員会は、「政治とジェンダー」をテーマに掲げ、政治・社会分野におけるジェンダー課題に声をあげる活動をしました。10月14日から27日にかけて、衆議院選挙に合わせ、SNSでメンバーが選挙で注目する点や、候補者の方に求めること・期待していること、地域の問題や課題の改善策について発信しました。また1月12日(日)には東京都議の岩永康代さんをお迎えし、「女性の声を政治に届ける」をテーマにお話を聞きました。



「女性の声を政治に届ける」講師と



ワークショップをオンライン実施

さらに、街中などで目に入る、プライベートゾーン（水着で隠れる部分）を強調する女性の表象など「性的な広告」に関してアンケート調査をし、女性の尊厳を守るため表現の改善を求めるステートメントを作成しました。ステートメント作成に合わせて、3月2日（日）に「もやる広告にわたしたちの声を届けよう」というオンライン・ワークショップを実施しました。



選挙をテーマにした
SNS キャンペーン画像

中高YWCA地区カンファレンス

参加者:3地区 合計159名

中高YWCAでは2024年夏、地区ごとの「地区カンファレンス」が行われました。7月31日～8月2日に東北・北海道地区（テーマ：平和 参加者：23名）と関西／西南地区（テーマ：愛と調和 参加者：91名）、8月5日～7日には関東地区（テーマ：自分・世界・平和 参加者：45名）で実施。東北・北海道地区のカンファレンスでは、元イスラエル兵のダニー・ネフセタイさんを講師にお招きし、パレスチナの状況を中心に「平和」について学ぶ時となりました。

東日本大震災被災者支援活動

2011年3月のあの日生まれた子どもたちが20歳になるまで支援を続けると決意し、「com7300」(com = 共に 7300 = 20年間の日数)を合言葉に、東日本大震災被災者支援を続けています。

リフレッシュプログラム

各地のYWCAで行う被災者支援事業を応援

実施プログラム数:2

2024年6月8日、東京YWCAが「福島第一原子力発電所の今と福島の人びとの思い（東日本大震災の風化を防ぐプログラム2024「福島の声を聞く」①）」と題して、菅波完さん（高木仁三郎市民科学基金事務局長）と市村高志さん（TCF：Tomioka.Connection.Fellowship 共同代表）の講演会を開催。また、9月7日には仙台YWCAが、福島原発が主人公の朗読紙芝居劇『ごめんなさい、ずっと嘘をついてきました。一福島第一原発 ほか原発一同』の映像上映&トークを実施しました。



仙台YWCAでのイベント案内



神戸セカンドハウス

セカンドハウスプログラム

被災した地域を離れて心身を休養することを目的に、家族単位で利用できる家を提供

利用者数:4家族17名(保護者8名、子ども9名)

2024年度も、学校の長期休みの期間に神戸YWCAがセカンドハウスを提供しました。

カー口ふくしま

事故より12年が経ち、「カー口ふくしま」を拠点とする活動も10年を経過したところでcom7300の今後のあり方を検討し、2024年6月をもって福島現地の活動の拠点「カー口ふくしま」を閉じました。新たな方法で、いっそう繋がりを大切にしながら、福島のお母さんたちのリアルな声の発信や、ユース主体の広島と福島をつなげた被災地の旅の実施、福島在住のユースの学びの奨学金などを企画・実施していきたいと考えています。



カー口ふくしまでイベント参加者と

全国のネットワークによる活動

日本YWCAが大切にするビジョンを実行に移し、地域のコミュニティや女性たちに貢献する現場が24の地域YWCAです。2024年には全国会員総会を開催し、それぞれの地域で活動する主体が連携し互いにエンパワーする方法について話し合いました。

全国で展開するローカル・アクション(LA)

プロジェクト数:6

実施イベント/セッション総数:58

Local Action (LA) は、全国のYWCAが地域や団体の枠を超えて協働し展開する社会貢献活動です。「女性がリーダーシップを発揮し、人権・平和・環境を大切にする社会」「若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます」というビジョン・ミッションに基づき、各地域YWCAが主体となって実施するプロジェクトを、日本YWCAは資金や広報面で応援します。2024年度は、右のプロジェクトが実施されました。

詳細な報告はこちらから
ご覧いただけます ▶

<https://www.ywca.or.jp/kaze/la3>

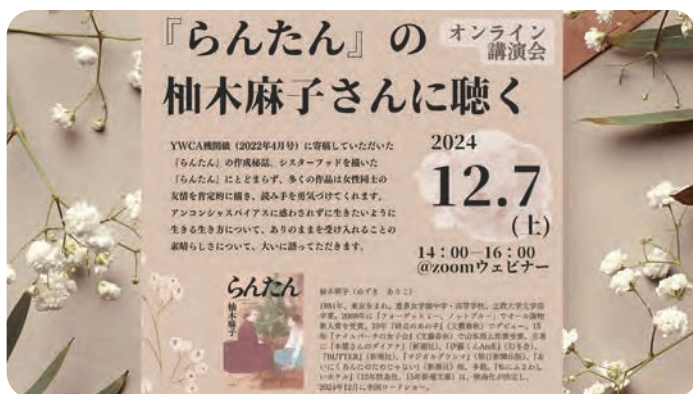


第3期LA(2023-2025) プロジェクト一覧

1. 今日のランチなに食べる？ 今度の選挙どうする？～日常の中で政治参加を考える
(拠点:横浜YWCA 協働:Tea + α、ジェンダーカフェ杉並)
2. 平和の守り人～次世代につなぐ平和の学び～
(拠点:釧路YWCA 協働:函館YWCA、札幌YWCA)
3. 沖縄と大阪を結んで女性の人権とジェンダーの課題を考える
(拠点:大阪YWCA 協働:沖縄YWCA)
4. 韓国スタディツアー～日韓の「過去」を知り、「今」を学び、「未来」を作る旅
(拠点:名古屋YWCA 協働:愛知県立高等学校教職員組合女性部)
5. 多様な人々が集う居場所づくり
(拠点:京都YWCA 協働:横浜YWCA、福岡YWCA)
6. 原発事故から学ぶ私たちの未来
—SDGsとコミュニティパワーの可能性—
(拠点:新潟YWCA 協働:福島YWCA、熊本YWCA、仙台YWCA、松山YWCA、函館YWCA、静岡YWCA)

講演会『らんたん』の柚木麻子さんに聴く

2024年12月7日(土) @オンライン 参加者:95名



講演会フライヤー

11月に実施した全国会員総会の関連イベントとして、作家の柚木麻子さんの講演会を行いました。柚木さんには、日本YWCAの草創期のリーダーである河井道をモデルにした『らんたん』の執筆背景を中心としながら、思うことをお話しいただきました。柚木さんの明るい話に参加者一同元気をもらいました。

国際連帯・アドボカシー

日本YWCAは、世界100か国以上のYWCAが加盟する世界YWCAの一員として、若い女性や少女のリーダーシップを通じた社会変革を目指しています。

パレスチナへの連帯と支援

パレスチナでの深刻な状況悪化が続く中、1950年に難民キャンプで幼稚園事業を開始したパレスチナYWCAは、軍事占領下で生きる子どもたちが学び、健康に育ち、自信を育む場をつくり続けています。

また、日本YWCAは、イスラエル軍や入植者に脅かされるパレスチナの土地に世界中の人々がオリーブを植樹する「オリーブの木キャンペーン」を応援しています。4000円で1本のオリーブの木を贈ることができます。2024年度は209本のオリーブを贈ることができました。



パレスチナYWCA幼稚園



ヘブロン地域の農家の女性。近隣に建設された入植地に生活を脅かされる中、贈られた200本のオリーブの木を新たに植えることができた

ミャンマー支援活動

日本YWCAは、ビルマ／ミャンマーの市民による活動を支える「ビルマ・プラットフォーム」への支援を呼び掛けています。2024年11月には他団体と協働し、神奈川県慶應義塾大学



日吉キャンパス協生館藤原洋記念ホールで「ディエゴ・カエターノ／田辺いづみ“ミャンマー市民とともに希望の光に向かって”チャリティー・コンサート」を開催。500席余のチケットが完売し、当日は現地からのビデオメッセージも寄せられました。

チャリティー・コンサート当日の会場



セーフスペース・ガイド日本語版表紙

世界YWCA出版物の日本語訳発行： 『セーフスペース・ガイド』

東京YWCA・国際語学ボランティアズILVの協力を得て、『Our Spaces, Power Spaces: YWCA's Safe Spaces Guide (私たちのスペース、パワースペース：YWCAのセーフスペース・ガイド)』日本語版を発行しました。YWCAのセーフスペースを特徴づける「10の基準」を中心に、詳細な解説と実施方法、書き込んだり切り取ったりして使えるワークブックなど、手に取る人それぞれの場に合ったセーフスペースをつくるのに役立ちます。

日本語版は日本YWCAウェブサイトより購入できます ▶
<https://www.ywca.or.jp/aboutus/books/publication/>



インターン受入れ

2024年9月～10月、オーストラリアからYasmin Pooleさんがインターンとして来日。女性・少女の状況や平和に関する活動に関心を寄せ、横浜・東京・京都・大阪YWCAでの活動に参加して会員と交流を持ちました。



ユースとの交流イベントの様子

声明・賛同

- 「武器輸出に反対し、外交努力による平和構築を求めます」抗議文(4/3)
- 「上川外務大臣宛 ICCの独立性を守るために日本政府に行動を求める」に賛同(5/31)
- 特定非営利活動法人メコン・ウォッチより、要請文
「ミャンマーで困難な状況にある人びとに確実に届く国際協力を求めます」に賛同(10/4)
- パレスチナの平和を求める声明(10/7)
- 「祝・日本原水爆被害者団体協議会ノーベル平和賞受賞！日本政府は、一刻も早く核兵器禁止条約を署名・批准そして、被害者への国家補償を」声明(10/25)
- 「私たちは尹錫悦政権退陣民主化闘争に連帯します」に賛同(12/19)
- 「国立女性教育会館の研修棟・宿泊棟の撤去・廃止に反対する声明」に賛同(12/26)
- 「ウィメンズマーチ東京」に賛同(1/16)
- 女性差別撤廃委員会(CEDAW)に対する日本政府の措置に対する抗議文(2/22)
- 「ガザの恒久的停戦と、パレスチナの平和を求める」声明・共同呼びかけ(3/28)

全国のYWCAが多様な女性たちの「セーフスペース」となることを目指して！

歴史的に世界中のYWCAは、実際の居場所としての「セーフスペース」を、
 宿舎やシェルターなどの形で提供してきました。

日本YWCAは今、現代のニーズに即した新たな取り組みとして、
 全国の地域YWCA拠点を活かし、
 生きづらさに直面する女性たちの「居場所」をつくる事業を進めようとしています。

担当スタッフより

“ 私たち全国のYWCAには拠点＝スペースがあります。それぞれ先人たちが、その時代・地域において女性たちのエンパワメントの場として築いて継いできたものです。YWCAは、これらの拠点をさらに生きづらさを抱えた若い女性たちの声を聞き、共に居るセーフスペースとして展開しようとしています。

セーフスペースをつくるとは、誰もが排除されることなく「そこにいていい」と思える場所であり、「自分自身のことを話せる場」をつくることです。そこでは経験や課題を共有することができ、情報にアクセスして意識を高め、キャパシティを広げることができます。

一時的に場所を開いて利用してもらう「居場所」事業や、短期間の滞在もできる「居住」事業を展望しながら、「食べる・休める・学べる・元気になれる」場所をYWCAは今後各所でつくっていきます。ぜひ応援してください！ ”

(日本YWCA総幹事 山本知恵)



京都YWCA・Yここkitchen

2024年度の募金のテーマ・クローズアップ

災害時支援募金・ウクライナ支援募金を深掘り

日本YWCAは、海外のYWCAと連携し、現地のYWCAの活動をサポートする形で 緊急支援を行っています。2024年度は、同年9月に起きた洪水の被害を受けたネパールYWCAとミャンマーYWCAに支援を届けました。また、ウクライナYWCA支援募金を継続して送金し、ウクライナYWCAを通じて国内避難民を支援しました。

● ネパールYWCAより

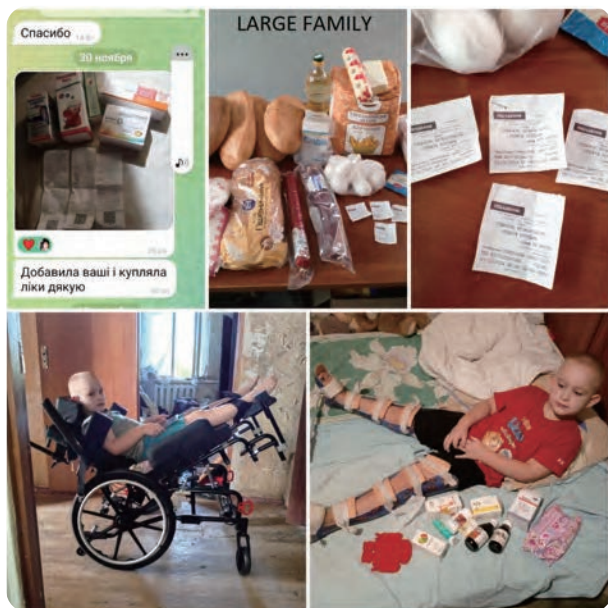
パンデミックの中での支援活動には困難が伴いましたが、愛をもって寄せられた支援によって、タイムリーにニーズに応えることができ、被災した人たちの自尊感情と未来への希望を守る助けとなりました。支援の届きにくいコミュニティにも手を差し伸べることができました。私たちの地域内でもファンドレイジングの努力を行っていますが、より力を尽くすための励ましとなりました。



被災者に支援物資を届けるネパールYWCAメンバー

● ウクライナYWCAより

政府による光熱費の値上げのため、多くの女性たちが「食物を買うか、光熱費を払うか」を選ばなくてはならないような状態に置かれ、経済的な支援を必要としています。対象者にはシングルマザーや障がいを持つ子どものお母さんもいます。ウクライナYWCAはこういった家庭への経済的支援や、食べ物や生活必需品の支援も行っています。



支援先の一つは、6人の子どものいる大家族です。5歳の末っ子のワシリーは深刻な脊髄の病気を患っており歩くことができず、継続的な加療を必要としています。私たちは薬、食べ物、必要不可欠な日用品などを支援し、小さなワシリーを医院に連れて行くためのガソリン代も支援しています。強力な蓄電器を購入し、爆撃の後の停電中も電気が使えるようにしました。

ウクライナYWCAが支援する家族

寄付報告

2024年度も、多くの皆さまからのご支援・ご協力を誠にありがとうございました。
日本YWCAは、今後も平和で誰もが尊重される社会に向けた、女性たちの主体的な活動を支援していきます。

代表理事 実生 律子・会長 藤谷 佐斗子（～2024.11）
樋口 さやか（2024.11～）

寄付のご報告と募金の種類 活動へのご賛同 ありがとうございます。

日本YWCA賛助費	1,443,000 円	日本YWCAの活動全般を支えます。 [一口年額] 3,000円／5,000円／10,000円
ピースメーカーズ募金	4,155,092 円	平和を創りだす女性のリーダーシップ養成活動に用います。
東日本大震災被災者支援募金	806,545 円	被災地の女性と子どもたちを支援する活動に用います。
カー口ふくしまサポーター	80,000 円	東日本大震災被災者支援事業の一つ「カー口ふくしま」を支えます。
日本YWCA ユースエンパワメント基金	565,224 円	ユースエンパワメントのための助成に用います。
金 災害時支援募金	407,337 円	国内外の緊急支援活動に用います。
オリーブの木キャンペーン募金	747,000 円	一口4,000円で、オリーブの木1本をパレスチナに植えます。寄付者には証明書が発行され、植樹された場所に寄付者の名前入りプレートを置きますので、お名前のローマ字表記をお知らせください。
パレスチナYWCA支援募金	1,433,179 円	パレスチナYWCAが難民キャンプで運営する幼稚園の支援に用います。
ウクライナ支援募金	697,648 円	現地の女性や子どもたちへの経済的・心理的支援活動に用います。
ビルマ/ミャンマー支援募金	437,250 円	平和を目指す現地の市民活動を支援します。
能登半島地震被災者支援募金	143,519 円	現地で被災者支援活動を実施するACT ジャパン・フォーラム、ならびに日本YMCA 同盟に送金しました。（受付終了）

合計 10,915,794 円

募金方法 日本YWCAへの募金/寄付金(賛助費を含む)は、税額控除の対象になります。

- ▶ **銀行振込** 三井住友銀行 飯田橋支店 普通預金 1198743
(口座名義) 公益財団法人日本YWCA
ゆうちょ銀行 〇一九支店 当座預金 23723
(口座名義) 公益財団法人日本YWCA
- ▶ **郵便振替** 00170-7-23723
(加入者名) 公益財団法人日本YWCA

Eメールで(郵便振替は通信欄で)①募金の種類、②ご住所、③お名前を、オリーブの木キャンペーン募金の場合は ④お名前のローマ字もお知らせください。(税額控除の書類、オリーブの木証明書を送付します)

▶ クレジットカードで募金

QRコードからアクセスして、クレジットフォームを通じてご寄付いただけます。

クレジットカードで募金
QRコード ▶



▶ 賛助員になってください!

「賛助員」は、費用面でYWCAの活動を支えることができるサポーターです。女性だけに限りません。詳しくはQRコードから日本YWCA ホームページ「会員・賛助員について」をご覧ください。

日本YWCA ホームページ
会員・賛助員について ▶



公益財団法人 **日本YWCA**

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel: (03)3292-6121 Fax: (03)3292-6122 Email: office-japan@ywca.or.jp
Website: <https://www.ywca.or.jp>